

保健体育科教育法 A		講義	非常勤講師 山野 悟	
科目カテゴリー	スポーツトレーナーコース、スポーツマネジメントコースの教職科目 柔道整復師コースの教職科目 救急救命士コースの教職科目	科目ナンバリング	11531205 12531205 13531205	

1. 授業のねらい・概要

体育科教育において求められる教育目標および学習の内容について、基礎的な概念をはじめ時代の背景に連動してきた具体的な内容の変遷を理解するとともに、今日的な社会状況における体育科教育のあり方について学習する。また、体育教師として必要とされる資質や能力を培うと同時に、体育科教育の学習指導について、基本的な考え方をふまえ、教材づくりや学習指導案の作成など、実践的な授業づくりを中心に理解を深める。

2. 授業の進め方

指定テキストおよび関連の資料を用いて、体育科教育の基本理論から具体的な体育授業の目標および内容を検討し、講義を進めていく。毎時間レポートを提出し、理解度を確認しながら講義を展開していく。

3. 授業計画

1. 講義概要説明（オリエンテーション）	9. 体育科教育における検討課題（1） （体力・運動能力低下との関連性）
2. 体育科教育とは何か	10. 体育科教育における検討課題（2） （今日的な体育授業の課題）
3. 「体育授業」の変遷について（1） （重点目標の変遷）	11. 体育科教育における検討課題（3） （体育授業における「できる」と「わかる」）
4. 「体育授業」の変遷について（2） （教育課程の改善との関連）	12. 指導計画の作成（1） （学習指導案作成時の要点）
5. 体育科教育における目標と内容（1） （目標の構造と意義）	13. 指導計画の作成（2） （学習指導案の具体的な検討）
6. 体育科教育における目標と内容（2） （学習の対象運動とその変遷）	14. 学習評価を考える（評価の意義・内容・方法）
7. 体育科教育における目標と内容（3） （学習の内容）	15. 講義のまとめ
8. 体育科教育における目標と内容（4） （それぞれの運動の特性）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各講義の際に示した内容について、テキストとして使用している学習指導要領解説の該当箇所を参照しておくこと。また、次回の講義に向け、授業時に配布する資料を復習しておくこと。これらの準備学修には1時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎時間のレポート課題については、課題を提示した次週に要点を解説する。期末レポートについては、ポイントおよび出題意図をレポート回収後に教室にて説明する。

6. 授業における学修の到達目標

本講義では、体育科教育の教育目標および学習内容を理解し、体育教師として求められる教科内容の理解や授業づくり、学習評価について実践できる力を身につけることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験としてのレポート(60%)、毎時間レポート課題への取り組み(30%)、講義への参加意欲、活動状況(10%)によって総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：文部科学省 「中学校学習指導要領解説」（保健体育編） 東山書房
参考文献：文部科学省 「高等学校学習指導要領」 東山書房
「中学校学習指導要領」 東山書房
「高等学校学習指導要領解説」（保健体育／体育編） 東山書房

9. 受講上の留意事項

中学校・高等学校（保健体育）の教員免許取得を目指し、意欲的に取り組む学生の受講を望む。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、教育機関における教員としての実務経験（小中学校教員，小中学校校長，教育行政職；生涯学習機関）を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。